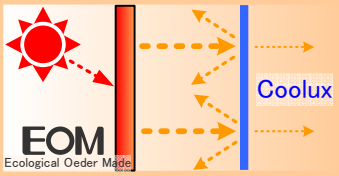
「クーラックス」施工いろいろ3-2 ー屋根遮熱の巻ー

（ 穴なし仕様 ）

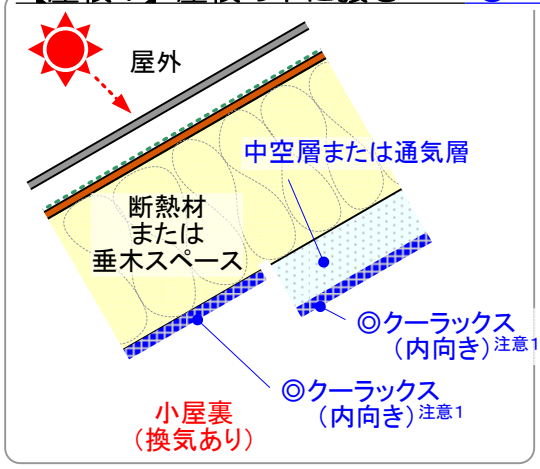
SyanetsuShiryou103−2/sekou_tendan20100703



”屋根遮熱”は、遮熱シートの性能を一番出せる使い方です。ここでは屋根遮熱について取り付け例を紹介します。
遮熱性能をより高く発揮するため、湿気がこもらないようにするために、留意点も参考にしてください。

「だんねつ遮熱しりょう 第103号」(抜粋)

【屋根１】屋根の下に張る … ◎：遮熱性高いパターン（遮熱専用で天井の焼け込み低減に）



・遮熱： ◎ （小屋裏空間や天井の手前で遮熱し、熱のこもりを低減）
・断熱： △ （小屋裏の断熱効果により冬の小屋裏温度を高める程度）
・防露： ー
・気密： ー
・ホコリ避け／施工時： ○（施工中にたつホコリが少し付着）
施工後： ○（小屋裏換気で侵入するホコリが少し付着）

注意1： クーラックスの外側に十分な通気や湿気抜きがない場合は、クーラックスとクーラックスの間にすき間を設けながら張ることで、クーラックスで湿気を止めないように留意してください。
補足1： クーラックスの上を通気層にして、棟付近で十分に熱気抜きすることで、防暑性能を向上できる。

【参考】詳しくは、別紙「だんねつ遮熱しりょう 第103-2号」参照

取り付け例と留意点を紹介します

①クーラックスは内（下）向き
②熱気は換気を多めにして外へ逃がす
③湿気は換気と透湿でこもらないように

①クーラックス（内向き張り）

【遮熱効果】
日射で高温になった屋根の裏面で遮熱する
・補足：屋根面から天井に向かう高温輻射をカットする。高温になるほどに輻射成分は対流成分より大きい割合になるので、遮熱効果が大きい！

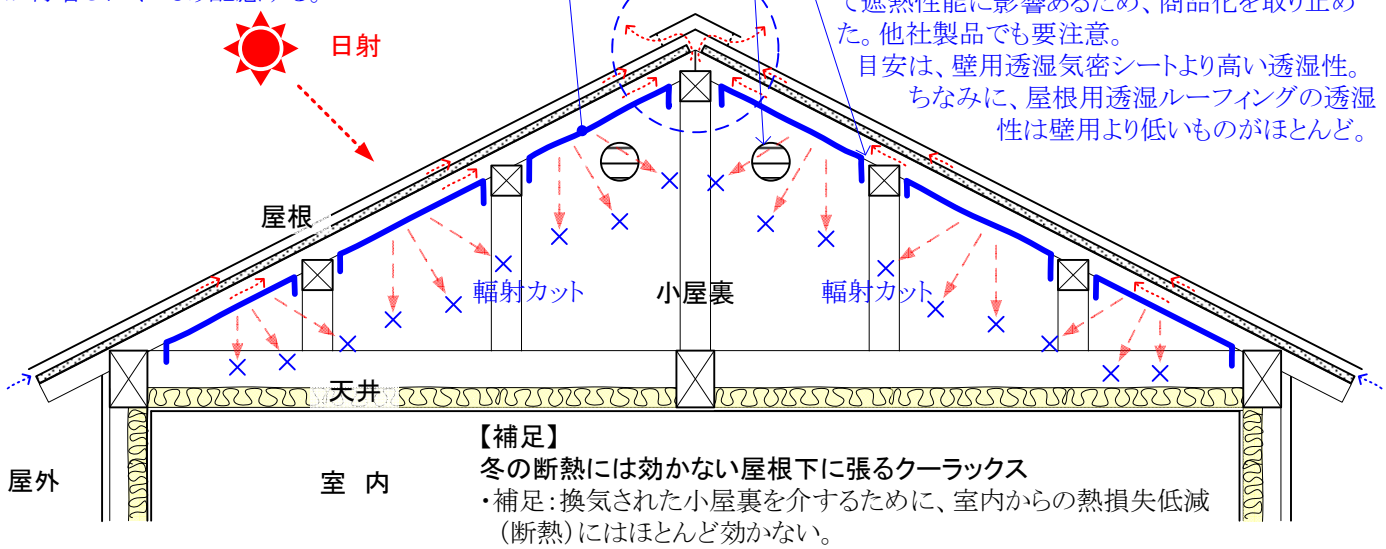
【留意】
・クーラックスは内（下）向きに張り、遮熱面にホコリが付着しにくいよう配慮する。

【留意】②熱気抜き＋③排湿

小屋裏は、従来より多めに換気するよう配慮する
・補足：屋根下に遮熱シートを張ると、屋根下面の温度が従来より高くなり、近くの空気の温度が高くなる。この暑くなった空気を排出することで、より高い遮熱効果を得られる。

【施工】②熱気抜き＋③排湿

母屋材の手前にすき間を設ける例
・補足：湿気を止めないよう配慮する。すき間は30～45mm程度とし、空気流動性を考慮する。
・参考：遮熱シートの穴あき仕様を検討したが、必要な透湿性を確保するためには、穴が多くなり過ぎて遮熱性能に影響あるため、商品化を取り止めた。他社製品でも要注意。
目安は、壁用透湿気密シートより高い透湿性。
ちなみに、屋根用透湿ルーフィングの透湿性は壁用より低いものがほとんど。



【補足】
冬の断熱には効かない屋根下に張るクーラックス
・補足：換気された小屋裏を介するために、室内からの熱損失低減（断熱）にはほとんど効かない。
小屋裏の断熱には効果があり、小屋裏の温度が少し上昇する。

EOM 株式会社 Ecological Oeder Made
ホームページ http://www.sunQeom.com/ Eメールアドレス renraku@sunQeom.com
〒435-0053 静岡県浜松市東区上新屋町203-9 Tel.053-464-8970 Fax.053-464-8971